

“ウォーキング倶楽部”



と き: 令和4年5月28日(土)午前9:00開始

ところ: 日和山公園駐車場

『河岸八丁の面影を巡る』コース

【今回の見どころ】

日枝神社の祭礼日にあたる旧暦4月の中の申の日、太陽が日本海に沈む地点から一直線の所を選んで、酒田の都市軸である本町を決めたといわれています。

さらに、本町、中町、内匠町、寺町など東西を縦軸に『通り』とし、南北の66の横軸を『小路』としています。

『河岸八丁』とは、染屋小路から上袋小路までの八つの町の総称です。船場町が湊として機能するのは350年ほど前からです。それ以前は、河岸八丁が酒田湊の中心で、本町・船場町以上の賑わいを呈していたといわれています。

【**染屋小路**】1646年の記録に名前があり、染屋を営む者が多く住んでいた。

【**利右衛門小路**】1656年以前の創始。酒田町の長人 村井理右衛門が住んでいたことに由来する。

【**下袋小路**】1656年以前の創始。町の形が袋小路になっている。

【**実小路**】1591年に加賀の前田利家の宿舎としたことから、もとは「御宿(オヤノ)小路」と言った。1876(明治9)年に「実小路」に改称した。

【**中袋小路**】1656年以前の創始。町の形が袋小路になっている。

【**山椒小路**】1609年の記録に名前がある。由来は不明。「山升小路」「山伏小路」の記載もある。

【**稻荷小路**】1624年の記録に名前がある。町内の龍徳稻荷神社を祭っていることに由来する。稲荷小路は山居橋へ真っ直ぐに通じ、米を積んだ大八車でごった返していた。

【**上袋小路**】1656年以前の創始。新井田川沿いの舟着き場として栄え「船乗町」と言われた。町の形が袋小路になっている。

1 酒田市役所／三十六人衆ゆかりの地碑

酒田町組で一番最初に出来たのが本町通りです。大永元年(1521)に三十六人衆が向う酒田から水害を避けてこの本町に居住し自治組織を運営しました。



4 酒田町奉行所跡

元和8年(1622)酒井家は庄内に入ると酒田御町代官所を町奉行所と改め、入部から明治2年に民政局の命で廃止されるまでの268年間の長きにわたって酒田の町政を担当してきた場所です。当時は表口152m、奥行き182mで約1.8mの堀で囲まれ、長屋門から14mのところの玄関がり、18畳3つ、15畳が2つ、10畳4つを主とする全部で14の部屋があったそうです。



2 龍徳稲荷神社

稲荷小路のお稲荷さんと言ひ、この辺りに住んでいた獵師が、大漁満足と海上安全を祈願し、立谷沢の稲荷神社から神霊を勧請したと伝えられています。社殿は文政年間の建立。

境内には船の台座に乗った立派な「船玉大明神」があり酒田に似つかわしい神社です。



3 福一満虚空蔵堂(上袋小路)

酒田町奉行所同心 村井伴治の屋敷があり、敷地内の土中より、虚空蔵菩薩石像が発見され、自宅内にお祀りしていました。

